

横浜市感染症発生動向調査報告 12月

《今月のトピックス》

- インフルエンザが流行しています。
- 咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。
- コクシジオイデス症^{*}の報告がありました。

※コクシジオイデス症

アメリカの西南部、中南米の一部の風土病です。半乾燥地域の限られた地域の土壌中の真菌が原因で、強風などで土ほこりが空中に舞い上がり、それを肺に吸い込むことで感染します。ヒトからヒトへの感染の心配はありません。流行地で土ほこりにさらされる活動をする場合には、顔にフィットした防塵マスク(0.4 μm以上の粒子を通さないもの)を着用してください。また免疫機能の低下している方は重症化しやすいため、土ほこりに近づかないようにしましょう。詳しくは、下記のリンクをご参照ください。

コクシジオイデス症とは(国立感染症研究所ホームページ)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/401-coccidioidomycosis-intro.html>

コクシジオイデス症(厚生労働省検疫所ホームページ)

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name70.html>

◇ 全数把握の対象

〈12月期に報告された全数把握疾患〉

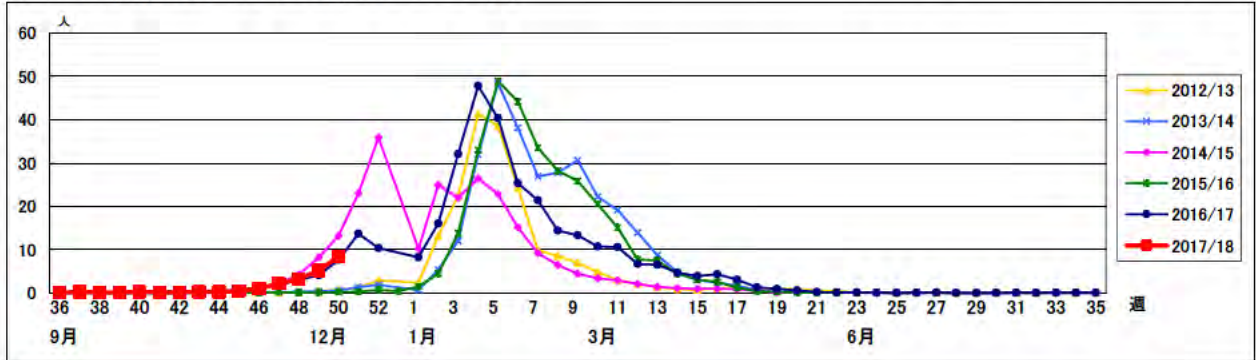
腸管出血性大腸菌感染症	5件	急性脳炎	2件
A型肝炎	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
コクシジオイデス症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	4件
レジオネラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
アメーバ赤痢	2件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	梅毒	6件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が4件、O26の報告が1件ありました。家族内での発生の報告がありました。
- 2 A型肝炎: 1件あり、国内での経口感染と推定されています。
- 3 コクシジオイデス症: 1件あり、アメリカ・アリゾナ州での塵埃感染と推定されています。
- 4 レジオネラ症: ポンティアック熱型の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- 5 アメーバ赤痢: 2件の腸管アメーバ症の報告がありました。いずれも経口感染と推定され、1件は台湾、1件は感染地域不明でした。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 7 急性脳炎: 病原体不明の幼児の報告が2件ありました。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群およびG群の報告が1件ずつあり、感染経路等不明でした。
- 9 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が1件、無症状病原体保有者の報告が3件で、いずれも男性でした。感染経路は、同性間の性的接触が2件、感染経路不明が2件でした。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 60歳以上の報告が7件でした。うち、ワクチン接種歴が確認されたのは1件で、4件は接種歴なし、2件は接種歴不明でした。
- 11 水痘(入院例に限る): 20歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種歴なし)ありました。
- 12 梅毒: 6件の報告(無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件)がありました。感染地域は、5件が国内での感染で、1件は不明でした。性別は、男性2件、女性4件です。感染経路は、異性間性的接触が5件、同性間性的接触が1件でした。

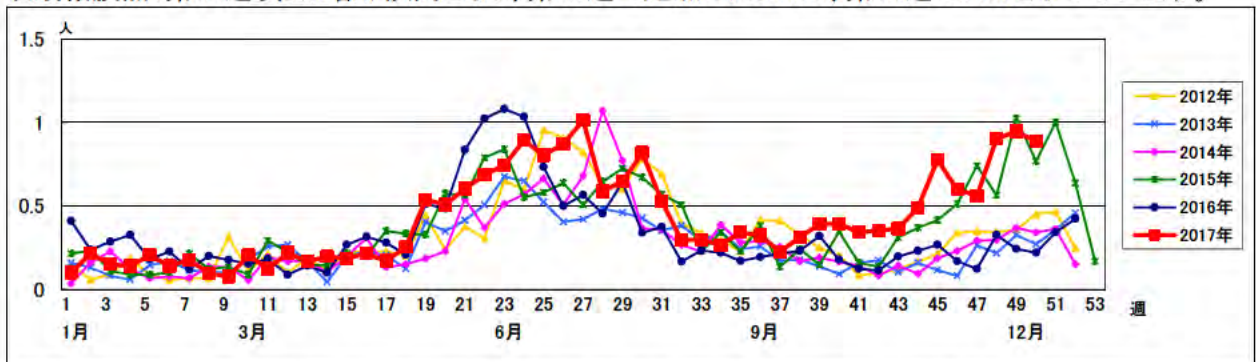
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第48週	11月27日～12月 3日
第49週	12月 4日～12月10日
第50週	12月11日～12月17日

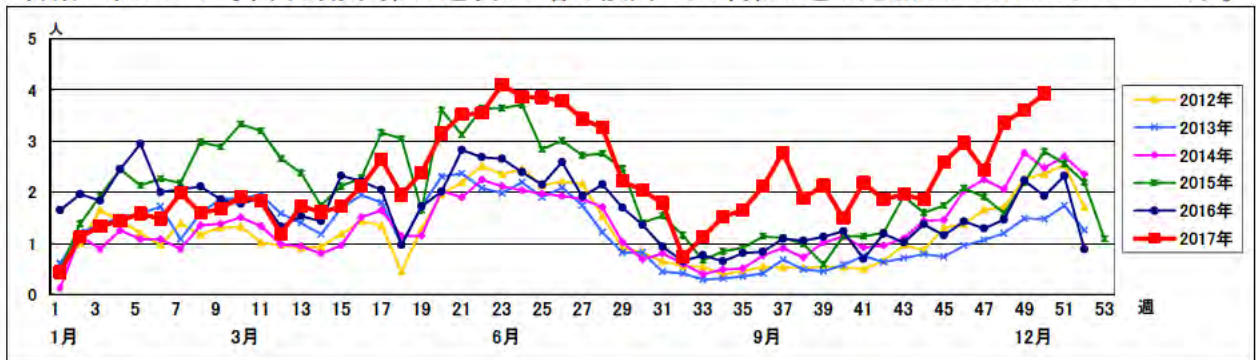
1 インフルエンザ:2017年第46週で定点あたり1.01となり、流行開始(流行開始の目安:1.00)となりました。第47週で2.18、第48週で3.21、第49週で5.21、第50週で8.48と増加しています。



2 咽頭結膜熱:第44週頃より増加傾向となり、第49週で定点あたり0.95、第50週で0.88となっています。



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第45週頃より増加傾向となり、第50週で定点あたり3.93となっています。



4 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:17件	女性:22件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 2件	女性:7件
尖圭コンジローマ	男性: 5件	女性: 4件	淋菌感染症	男性:11件	女性:4件

5 基幹定点週報

	第48週	第49週	第50週
細菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.33	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点50件、内科定点22件、眼科定点2件、基幹定点9件で、定点外医療機関からは3件でした。

1月9日現在、ウイルス分離49株と各種ウイルス遺伝子22件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(12月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	肺 炎	ア デ ノ 感 染 症 *2	胃 腸 炎	手 足 口 病 *1	流 行 性 耳 下 腺 炎 *1	肺 炎 球 菌 性 髄 膜 炎	発 熱
インフルエンザ AH1N1pdm09型	1		21	1					1	
インフルエンザ AH3型	1		5							
インフルエンザ B型山形系統	1	1	9							
アデノ 3型	2		1		1					
アデノ 型未同定	2				1					
ムンプス								2		
パラインフルエンザ 1型	3									
パラインフルエンザ 2型	1									
ヒトメタニューモ		1								
RS	1	3								
ヒトコロナ*3		2								
ライノ	1	1								
エンテロ 71型		1				1	1			
コクサッキー A9型		1								
エコー 3型										1
ノロ						2				
合計	5 8	1 9	36	1	1 1	1 2	1 1	2	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む、*3:HCoV-229E or NL63、HCoV-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

12月の「感染性胃腸炎」は、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2が4件、O157:H7,VT2が2件、O26:H11,VT1が2件)が8件でした。

「その他の感染症」のインフルエンザ菌(侵襲性インフルエンザ感染症が1件、小児科定点鼻腔が1件)は2件で、共に無莢膜型でした。肺炎球菌は侵襲性肺炎球菌感染症が2件でした。その他の1件は血液培養からの菌株同定で、*Helicobacter cinaedi* でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(12月)

細菌感染性胃腸炎								
菌種名	検査年月		12月			2017年1月～12月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		0	1	7	6	52	106
赤痢菌						3	3	
腸管出血性大腸菌			1		7	9	94	
腸管毒素原性大腸菌						5	3	
腸管凝集性大腸菌						4		
チフス菌						1		
サルモネラ属菌						21	5	
不検出			0	0	0	6	9	1
その他の感染症								
菌種名	検査年月		12月			2017年1月～12月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		6	6	2	40	99	197
A群溶血性レンサ球菌	T1					11	1	
	T4					7		
	T6					4		
	T12					2	1	
	T 22	1			1			
	T B3264	1	1		4	2	1	
	型別不能	1			3			
B群溶血性レンサ球菌						2	7	
G群溶血性レンサ球菌			1			6	4	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌							3	
バンコマイシン耐性腸球菌							9	
レジオネラ属菌						2	7	
インフルエンザ菌		1		1	2	1	6	
肺炎球菌			1	1		7	16	
結核菌						20	111	
百日咳菌						4		
緑膿菌						1		
その他			1			46	25	
不検出			2	2	0	6	8	6

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】